巻頭言

平成26年になってから早くも４月に入りました。桜の花が咲き始めたところや蕾みのままのところなど桜前線が気になる季節です。さて、本学会誌を楽しみにされていた会員の皆様にはまずお詫びをしなければなりません。昨年秋より発行が遅れておりましたが、これは原稿が十分に集まらなかったのが一番の理由です。特に原著論文は、前年の学術総会からピックアップした優秀な研究を論文にしていただいていましたが、それ以外の論文がなかなか集まらないのが現状なのです。じつは他の学会も同様の問題を抱えており、小生が理事を務めている日本統合医療学会の学術誌は年２回発行にしています。そこで編集委員の先生方と相談し、私どもの学術雑誌も年２回発行にすることにしました。また、編集体制を充実させるため、副編集長に篠原昭二先生（明治国際医療大学伝統鍼灸学教授）と別府正志先生（東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター講師）に就任していただきました。

さて、本号では昨年度の学術総会のシンポジウム１「自然治癒力を科学する」を論文にしております。第１回の学術総会からこのシンポジウムは小生が企画しておりますが、中医学という伝統医学と先端科学を融合させるということを目的としています。シンポジストの川嶋朗先生には原著論文にしていただき、他のシンポジスト（阿岸鉄三先生、中島恵美先生、小生）は発表内容をテープで起こして掲載しております。また連載ですが、平馬直樹先生のシリーズ「基礎理論と方剤を結ぶ入門講座」は終了し、北川毅先生のシリーズ「中医美容入門」は今回で終了です。両先生にはこの場を借りて御礼申し上げます。なお、天津中医薬大学でご活躍の柴山周乃先生のシリーズ「日本人中医診療記」はこれからも継続していただけます。

それでは、新しく生まれ変わった学術雑誌をこれからもどうぞ宜しくお願いいたします。

平成26年４月

日本中医学会　理事長
日本中医学会雑誌　編集長
酒谷　薫